

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）	
視点1「課題意識の持続」	視点2「達成状況の把握」
学習課題を自分事として考え最後まで学習に取り組むため、児童生徒の必要感や目的意識等が単元を通して持続する授業	児童生徒が、単元で目指す児童生徒の姿（付けるべき資質・能力を身に付けた姿）を明確に共有し、その達成状況について適切な場面と方法で捉え、評価がなされる授業
<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <p>単元ゴールを明確にもち、そのために何を学んだらよいかの見通しをもって学習する。</p> <p>授主体的に学ばせるために、単元を通した課題を設定するとともに、単位時間においては必要感や目的意識をもたせた課題解決型の授業を実践する。</p>	<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <p>学んだことを振り返りとして端的に文章表現する。</p> <p>授学んだことを振り返りで文章表現させることにより本時の学習内容の定着化と次時の学習への意欲化・課題化を図らせること、毎時間の「資質・能力」が身に付いているか適切に評価することを実践する。</p>

5 学年 算数科 単元指導計画		
単元名 四角形と三角形の面積 主教材：面積の求め方を考えよう	日 時	令和4年10月27日（木）5時間目
	対象学級	綾織小 5年1組 6名
	授業者	教諭 市野川 淑子
1 単元の目標 (何ができるようになるか)		
〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
四角形や三角形の面積の求め方を理解することができる。	図形の構成要素に着目して面積の求め方を考えることができる。	四角形や三角形の面積の求め方を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。
2 単元で取り上げる「数学的活動」 (何を通して育成するのか)		
(関連：B 図形（3）平面図形の面積) 図形の特徴や図形を構成する要素に着目して、図形の面積の求め方を考え、図と式を関連付けて説明することを通して、問題解決の過程や結果を数学的に表現する力を高める。		
3 単元の評価規準 (何が身に付いたか)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解し、公式を用いて面積を求めている。	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの構成要素や性質に着目し、既習の面積の求め方を基にして、図や式を用いて面積の求め方を考え、表現している。	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

4 単元のゴール	(どのような力をつけるためにどんなゴールを設定するか)
<ul style="list-style-type: none"> 図形の面積の求め方を考え、図と式を関連付けて説明することで問題解決の過程や結果を数学的に表現する力を高めるために、単元の初めに、「学んだことを使って、角の大きさで学んだ六角形の面積を求める」というゴールを設定する。 	
5 単元の指導と評価の計画 (全 11 時間)	(単元をどうデザインするか)

別紙 (22・23 ページ)

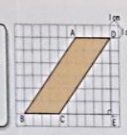
6 本時の目標
<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的にとらえる。 どんな形の平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。

7 「本校の視点」 + 「遠野中学校区の視点」による本時の授業改善 (どのように学ぶか)	
A 本校の視点 1 「算数的表現力の育成」	B 本校の視点 2 「家庭学習を生かした学習内容の定着」
<ul style="list-style-type: none"> ペア学習で自分の考えを順序立てて相手に話すことにより自分の考えを明確にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルで本時の内容の確認をし、家庭学習で復習させ、定着を図る。
遠野中学校区の視点 1 「課題意識の持続」	遠野中学校区の視点 2 「達成状況の把握」
<p>ア 本時の問題と前時の問題の違いに気付かせ、高さが図形の中に見付けられない困り感から課題を設定する。</p> <p>イ 見通しの段階で、既習の平行四辺形の面積の求め方が使えることを確認し、形を変えた平行四辺形にできないか考えさせる。</p>	<p>ア 類型化した問題に取り組みせることで、一人一人の達成状況を把握する。</p> <p>イ 「高さが内を書いていない平行四辺形の面積はどのようにして求めるか」の視点で振り返らせ、学んだこととの理解につなげる。</p>

8 板書計画等	(学びの可視化をどうデザインするか)
----------------	--------------------

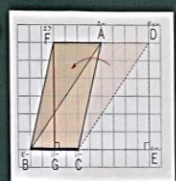
問 10/27

3 各の平行四辺形 ABCDで、辺BCを底辺としたときの面積の求め方を考えよう。




課 高さが図形の中にある平行四辺形の面積の求め方を考えよう。

全




底辺×高さ
式 $4 \times 6 = 24$
答 24 cm^2



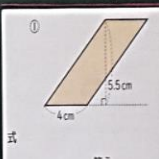
底辺×高さ
式 $4 \times 3 \times 2 = 24$
答 24 cm^2

底辺と高さが等しい → 面積等しい
 20 cm^2 20 cm^2 20 cm^2 (アとイの面積は平行)

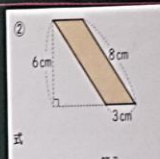


ま 平行四辺形の高さは底辺をのびた直線と底辺と向かい合った直線ののびと考える。だから平行四辺形の面積の公式を使って求められる。

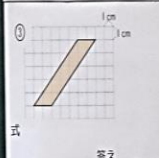
練



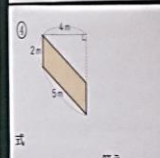
式 _____
答え _____



式 _____
答え _____

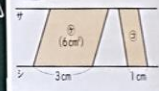


式 _____
答え _____

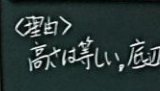


式 _____
答え _____

ア



式 _____
答え _____



式 _____
答え _____

理由
高さは等しい、底辺が $\frac{1}{3}$

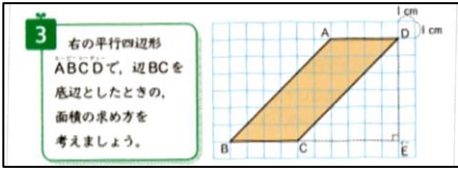
見 <答え>
 24 cm^2

自 高さを

<方法> 平行四辺形面積公式

② 三角形に分けて移動 → 平行四辺形

① 真ん中分けて → 平行四辺形

9 本時の展開 (3 / 11)		(本時をどうデザインするか)
	学習活動および学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習内容を確認する。 2 問題を把握する。  3 本時の課題をとらえる。 高さが図形の中にある平行四辺形の面積の求め方を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の面積の公式を確認する。前時に求めた平行四辺形の底辺、高さについても確認する。 本時の問題と前時の問題の違いに気付かせ、高さが図形の中に見付けられない困り感から課題に繋げる。 <p style="text-align: right;">《①ア》</p>
	4 見通しをもつ。 <答えの見通し> ・ 24 cm^2 <解決方法の見通し> ア 平行四辺形を三角形に分けて移動し、図形の中に高さを表す垂線の足がある平行四辺形に変えて面積を求める。 イ 真ん中で分けて、二つの平行四辺形の面積を求める。 5 課題を自力解決する。 ・ 図に書き込みをし、式と答えをノートに記入する。 <期待する児童の考え> ア 平行四辺形を変形させて $4 \times 6 = 24$ 答え 24 cm^2 イ 平行四辺形を二つに分けて $4 \times 3 + 4 \times 3 = 24$ 答え 24 cm^2 $4 \times 3 \times 2 = 24$ 答え 24 cm^2 6 学び合い (1) ペア学習 ・ 友達に式と答え、考え方を説明する。 (2) 全体学習 ・ ア、イの考えを発表する。 (3) 中間まとめ ・ 高さについて確認する。 7 適用問題に取り組む。 ・ 友達に考え方を説明する。 8 学習のまとめをする。 ・ 本時で学んだことを発表する。 平行四辺形の高さは、底辺をのばした直線と底辺と向かい合った辺をのばした直線のはばと考える。だから、平行四辺形の面積の公式を使って求められる。	<ul style="list-style-type: none"> マスを数えることで、答えの見通しをもたせる。 既習の平行四辺形の面積の求め方が使えることを確認し、形を変えた平行四辺形(等積変形)にできないか考えさせる。 <p style="text-align: right;">《①イ》</p> 解決する方法を自己決定させてから、自力解決させる。 図に補助線や移動後の図を描かせてから、式・答えをノートに記入させる。 ペア学習で自分の考えを順序立てて相手に話すことにより自分の考えを明確にさせる。 <p style="text-align: right;">《A》</p> 代表者の考えを検討させ、高さが図形の外にあることに気付かせ、アから高さが内も外も同じであることをまとめる。 底辺と高さの長さが等しければ、どんな平行四辺形でも面積は等しくなることに気付けさせる。 <p style="text-align: right;">《思・判・表》平行四辺形の性質に着目し、高さを表す垂線の足が平行四辺形の外にある場合と内にある場合を統合的にとらえ、高さについて説明している。(ノート・発表)</p> 子どもの言葉をつなぎながらまとめをする。
展開 25分	9 練習問題に取り組む。 ・ 高さが図形の内に記されていない練習問題に取り組む。 10 学習の振り返りをする。 <期待する児童の反応> ・ 高さが平行四辺形の外にあるときも、公式を使って求めることができる。 ・ 底辺と高さの長さが等しければ、どんな平行四辺形でも面積は等しくなる。 ※家庭学習の確認	<ul style="list-style-type: none"> 類型化した問題に取り組ませることで一人一人の達成状況を把握する。 <p style="text-align: right;">《②ア》</p> 《知・技》平行四辺形の面積は形によらず、底辺の長さとお高さによることを理解している。 (観察・ノート)
	11 次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 「高さが内を書いていない平行四辺形の面積はどのようにして求めるか」の視点で振り返らせ、学んだことの理解につなげる。 <p style="text-align: right;">《②イ》</p> ドリルで本時の内容の確認をし、家庭学習で復習させ、定着を図る。 <p style="text-align: right;">《B》</p> 次時は、三角形の面積を求めることを伝える。
終末 15分		

